

森林や緑地の保全、生物多様性の保全、 希少植物の保全、放棄林や耕作放棄地の管理



環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻
教授

笠木 哲也
KASAGI, Tetsuya

SDGs 関連項目



● 研究内容

森の国とも言われる日本では、森林が国土の機能維持を保障するものであることは当然だが、我々の身近にあるさまざまな植生や緑地も人間生活の安全、さらには人の心の安寧、いわゆるアメニティの提供に関しても重要な役割を果たすものである。このようなことを念頭に置き、放棄された植林地や里山林、竹林、耕作放棄地などの植生管理や再生に取り組んでいる。

・森林や山地に生育する希少植物の保全に取り組んでいる。植物の保全に当たり、生物間相互作用の機能にも着目し、訪花昆虫や植食性昆虫などの役割を評価することも重視している。

・竹林拡大、すなわち森林へのタケの侵入が急速に進んでいる。森林の生物多様性の激減が危惧される。人家裏の斜面が竹林化する事例も多く見られ、災害の危険性も高まっていると考えられる。タケの除伐法や竹林の密度管理手法の検討をしている。また、竹林管理に伴う生物多様性の変化などを調査している。

・農地景観は多様な生物の生息環境となる。生物多様性保全の観点から、農地の適切な植生管理法を検討している。

● 想定パートナー

地域や市民による保全活動、環境コンサル系の企業、自治体

● 応用分野

森林の管理、さまざまな緑地の植生管理、獣害対策、中山間地の農地保全

● 取組実績

- ・赤石山銅山峰のツガザクラ保全(愛媛県新居浜市)
- ・鳥取県内の希少植物保全(場所等非公開)
- ・鳥取県内のナラ枯れ対策